

生き物フレンズの活動

全国の活動を代表して
校外に発信!!

活動概要

グローブ*活動校の一つである海田東小学校は、川の学習にも熱心に取り組んでいます。生活科・理科・総合的な学習の時間を使って、全校生徒が川をフィールドに活動しています。

海田東小学校では、このグローブ活動や川の学習の成果を校外に代表者として発表する「生き物フレンズ」というチームを作り、活動しています。

学校名	広島県海田町立海田東小学校
活動場所	学校近くの三迫川、瀬野川
対象学年	4～6年生
科目	課外活動等



実践例

*グローブ (GLOBE) について

GLOBE (Global Learning and Observations to Benefit the Environment) は、全世界の幼児・児童・生徒、教師及び科学者が相互に協力しながら、環境に関する意識の啓発、地球に関する科学的理解の増進などにおいて、より高

い水準へ到達するための手助けとなることを目的として環境観測や情報交換を行う、学校を基礎とした国際的な環境教育のプログラムで、NASAが中心となってアメリカに事務局がつけられ、具体的な活動が始められています。

学習のねらい

身近な自然環境に触れ、様々な調査活動を行い、その変化を要因と関係づけながら多角的にとらえることにより、生物と環境のかかわりを総合的に考えることができるよう

にする。また、地域に愛着をもち、そのよさを未来につなげようとする心情や態度を養います。

活動を行うにあたって



P プログラム内容

活動1	校外での発表
活動2	各種イベントへの参加
活動3	グローブ活動
活動4	その他(海田東小学校でのエコ活動)



活動時期

・年間を通じた活動 (課外活動等)



参加した児童数

・4～6年生の15人



活動場所

・学校近くの三迫川，瀬野川



〇地域の特徴

本校は，海田町の南にそびえる堂所山から流れる唐谷川が三迫川と合流し，二級河川の瀬野川に注ぐ水域の近くに立地しています。

近代化が進む中，年々個体数が減少している日本の野生種クロメダカや，きれいな水にしか生息しないウズムシ，ホタルなどの貴重な小動物が見られる豊かな自然が残る地域です。

児童が展開する活動

本校児童は，保護者等によるおやじの会，地域の瀬野川調査隊，広島環境サポーター河川部会などの組織から支援を受け，川が大好きな大人たちの環境教育の助力を得て，次の活動を展開しています。

- ① 地域の自然との共生カリキュラムを作る。川的环境調査「水と緑の東小ものがたり」
- ② 学校の授業と完全リンクさせる。ー理科・生活科・総合的な学習の時間・道徳・エネルギー環境教育ー
- ③ 学年ごとに特色ある活動を行う「生きもの探検隊・緑のカーテン・風力発電・環境サミット」
- ④ ホタルの里復活ー卵を育てて放流しようー

活動内容



活動1 ～校外での発表～



↑ 校外での発表

- 広島で行った「地球温暖化ストップフェア（2007）」や周辺の小中学校で構成する「瀬野川サミット」などで海田東小の行う活動を，代表者として発表しました。（H19）
- 「瀬野川サミット」では，中学生や大学生に向け英語で発表しました。（H20）
- 東京・八王子であった「日本グローブ生徒の集い」に参加しました。
- これらの発表に対して，身近な環境から学んだ彼らの行動力がすばらしいと評価されています。（H20）



活動2 ～各種イベントへの参加～



↑ カキの学習会

- 環境の変化と生き物の学習として「カキの学習会」に参加しました。
- 「咲くマッププロジェクト」にも参加し，学校の桜が開花していく様子を，継続的に写真に撮り続けました。
- 「全国川の水質一斉調査」の時には，日曜日に集まり，瀬野川，三迫川の2地点でCODを測りました。



活動3 ～グローブ活動～



↑ メールのやりとり

- 毎日同じ位置での定点観測，気温と雲の量と形を毎日アメリカのグローブ本部に送りました。
- この間，500回記念メールも届きました。生き物フレンズの仲間が交代で行いました。



活動4 ～その他（海田東小学校でのエコ活動）～



↑ つかまえたアメンボ

- 1，2年生の取り組み
- ・ 1，2年生は生活科で，川の生き物をその手で捕まえ，水の冷たさや流れの速さを感じ，水の深さや川底の様子を実体験しました。
- ・ 児童からは，アメンボを見て「バイオリンを弾いてるみたいに手を動かすね」といった感性豊かな表現が見られました。



↑ 生き物調べ

- 3年生の取り組み
- ・ 3年生では，「三迫川の生き物調べ」から川の生きものの図鑑をつくりました。
- ・ 活動当初は稚拙な表現しかできなかった児童が，視点をもって観察すること，繰り返し観察することによって，生き生きと表現し，意欲ある取り組みの姿に変容しました。



↑ 水質調べ

- 4年生の取り組み
- ・ 4年生では昨年度と同様に年間を通じて2クラスの児童が川の中流・下流・瀬野川とエリアを分けて観察し，相互に情報交換をしながら気温や水温との関係を調べました。
- ・ 特に，中流域で見つけたゲンジボタルの成虫には興味をもち，生き物フレンズに入会したいという児童も出てきました。
- ・ 息の長い観察と，天候やその年の気温や水温，水量の変化に，川の生き物の成長がどのようにかわっているか，などの具体的なことを目の前にしながら調査できました。



● 5年生の取り組み

- ・ 5年生は、「豊かな体験宿泊活動」事業への取り組みに参加し、昨年度は身近な海田地域の環境と宿泊地である山口県の徳地青少年自然の家周辺との環境の違いに目を向け、理科の学習と関連させて、両地の気温の違いと、生き物の分布について学習しました。(H19)
- ・ 流れる水のはたらきの学習と関連づけて、福山市の芦田川に行き、川の水の水量と、地形による流れ方の違い、水の量と生きものとの関係、季節による変化と要因について、地域の瀬野川・三迫川と比べてみました。また、芦田川の環境についても学習しました。(H20)
- ・ その中で芦田川に多く生えている「葦」の水質浄化作用について知り、興味をもった子どもたちは、芦田川の葦を数本持ち帰り三迫川に植樹しました。(H20)



● 6年生の取り組み

- ・ 6年生では、「川の生き物マップ」などの地域環境にかかわる学習を行いました。
- ・ 地域の川の環境と自分たちの暮らしに視点をあて、ライフジャケットを着て、瀬野川を流れて水の力を体感する川流れを行いました。
- ・ 心を一つに合わせないと進まない「Eボート体験」を行いました。
- ・ 「Eボート体験」を通じて、チームワーク力や集団活動のルールを守る社会性が育ちました。

まとめ



活動による効果

川の水質を高めるために葦を植えたり、緑のカーテンとして植物を栽培したりしました。川の環境調査活動におもむくと、空き缶やペットボトルを拾って帰っていたが、それを見た地域の人々が「児童が来るから川掃除をしよう」「草を刈っておくからね」「ゴミを捨てないようにしよう」という運動や意識の変化につながりました。これらは、小さな変化ではあるが、環境回復の取り組みであり、持続させていきたいと願う人々が増えてきたという実感がもてるようになりました。

中流域の唐谷川で見つかったゲンジボタルを捕獲し、平成19年には4,000個の卵を産ませ飼育した。ふ化して育った幼虫は、約1割の400匹でした。



関連する単元

- ・ 1, 2年生－生活「身近な自然観察・季節等の行事」
- ・ 3年生－理科「身近な自然の観察」
- ・ 4年生－理科「季節と生物」
- ・ 5年生－理科「動物の誕生」
- ・ 6年生－理科「生物と環境」
- ・ 1～6年生－道徳「主として自然や崇高なもののかかわりに関すること」
- ・ 共通－総合的な学習の時間
- ・ 特別活動－学校行事「遠足・集団宿泊的行事」